


令和7年度 地域情報化アドバイザープロフィール

ふりがな	まいた つよし	
氏名	米田 剛	
所属・役職	一般社団法人ソーシャルシフトアシスト 代表理事 デジタル庁 オープンデータ伝道師 総務省 地域情報化アドバイザー	
活動拠点	青森県、全国	
略歴	<p>(主な経歴)</p> <p>1982年 (株)富士通第一システムエンジニアリング入社 2016年 富士通株式会社に転籍 2021年退社 2007年 NPO 法人地域情報化モデル研究会を設立 代表理事に就任 2010年 総務省地域情報化アドバイザー任命 2015年 あおもり官民データ活用推進コンソーシアムを設立 代表に就任 2016年 観光情報連携プラットフォーム機構を設立 常務理事に就任 2016年 高市総務大臣主宰 地域IoT実装推進タスクフォース 構成員任命 2018年 Code for Aomori を設立 代表に就任 2018年 総務省地域メンター 任命 2018年 一般社団法人ソーシャルシフトアシストを設立 代表理事に就任 2019年 内閣官房 IT 総合戦略室 (現在デジタル庁) オープンデータ伝道師任命 2020年 京都芸術大学 芸術教養学科 入学 2021年 公益財団法人 21 おおもり産業総合支援センター DXアドバイザーに就任</p> <p>(主な表彰歴)</p> <p>2011年 平成23年度「情報通信月間」東北総合通信局長表彰 2014年 平成26年度「情報通信月間」情報通信月間推進協議会会長表彰 情報通信功績賞 2015年 平成26年度 総務省地域情報化大賞特別賞 (観光クラウドモデル) 2017年 平成29年度「情報通信月間」東北総合通信局長表彰 (オープンデータ)</p>	
地域情報化の 専門分野・技術	<p>■観光 観光データの官民連携・広域連携モデルである青森県発の観光クラウドモデル (平成26年度総務省地域情報化大賞特別賞、地域IoT実装タスクフォース横展開推奨モデル) について、事例の紹介や企画提案、実装支援など横展開の支援を行っています。</p> <p>■オープンデータ</p>	

		<p>Code for Aomori を主宰し、オープンデータ活用を含む青森県でのシビックテック活動や、デジタルオープンデータ伝道師として、主に東北エリアでの自治体のオープンデータ推進に参画しています。</p> <p>■DX 地域の中小企業・団体等のDX推進に向けて、ビジョンの策定や課題の定義、施策の策定、デジタルツールの導入、DX推進マネジメントなど包括的支援を行っています。</p>
専門分野		<p>オープンデータ AI活用 生成AI活用 計画策定支援（地域情報化計画・官民データ計画・自治体DX推進計画等） 人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 地域ビジネス 観光 スマートシティ プロジェクトマネジメント支援</p>
自治体向けメッセージ		<p>地域社会DXの推進に向けて、行政と民間企業との創造的な関係構築に向けたソーシャルデザインのお手伝いさせていただきます。</p>
関連サイト		<p>■観光クラウドについて 「青森県の観光クラウドモデルの事例紹介」 https://www.asic.or.jp/tourismcloud</p> <p>■雑誌 Fujitsu 研究論文寄稿 「観光分野におけるオープンデータの官民連携活用」 https://bit.ly/3wsobf</p>
地域情報化に関する実績	これまでの経験業務・研究活動	<p>■地域ISP 2000年 青森県の地域インターネットプロバイダ「7-dj.com」立ち上げ。</p> <p>■地域IDC 2002年 青森市に寒冷地型データセンター事業を立ち上げ。 北国の冷涼な外気を活用した先進の省エネ型データセンターを構築。 IDCを活用した企業のインターネットセキュリティの包括的マネージドサービスなど青森から全国へ事業展開した。</p> <p>■グリーンデータセンター 2011年 青森県むつ小川原グリーンITパーク推進協議会 幹事(兼)アドバイザーに就任。 風力発電とコンテナ型データセンターの集積による青森県独自の地域振興施策を策定した。</p> <p>■オープンデータの官民協働推進 2015年 あおもり官民データ活用推進コンソーシアム設立 代表に就任 青森県のオープンデータ活用推進に向けて以下の取り組みを実施した。 ・オープンデータ顕彰制度創設 ・データ活用アドバイザー制度創設 ・青森県の官民共同運営型データカタログポータル構築</p> <p>■オープンデータ連携基盤技術の開発 2015年 自治体等のオープンデータの登録や更新作業の負担を解消するため、Webサイトから対象データをリモートで機械収集し、データフォーマットの共通</p>

		<p>化や複合的データの再結合ができる独自のデータ連携基盤技術を開発。全国の公共観光データ（15万件）を自動収集し、観光情報の広域連携・海外連携等、観光分野の官民データ活用モデルとして社会実装した。</p> <p>研究成果は「雑誌 Fujitsu」にて公開 「観光分野におけるオープンデータの官民連携活用」 https://bit.ly/3wsobf</p> <p>■5G活用モデル 2019年 観光分野における5Gの活用モデルや地域CATVのローカル5G事業モデルを研究。 福岡県東峰村の5G活用ビジョンとして提供するほか、総務省地方局セミナー、観光庁、通信技術団体、地域CATV等へ知見を提供。</p> <p>■ふるさと納税活用モデル 2019年 ふるさと納税を活用した地域イノベーションの施策について研究。 ふるさと納税の官民協働による推進施策、地域スポーツ振興団体（Jリーグ等）の地域貢献施策、大学の社会学習プログラム等で知見を提供。</p> <p>■DX推進 2020年 公益財団法人21あおもり産業総合支援センターにDXアドバイザーとして就任 顧客接点のデジタル化の推進やテレワーク等のワークスタイル変革に向けたDX基盤の構想や実装の支援、経産省の推進するDX認定制度（DX-Ready）に適合したマネジメントシステムの提起等を実施した。 また、県内中小企業のDX推進に向けた公的支援施策を提起し、青森県の中小企業に対するDX推進施策（重点）として知見を提供した。</p>
<p>これまでに 関与した地 域情報化に 関するプロ ジェクト</p>		<p>■2008年 青森県の地域SNS「@ami' z」立ち上げ（富士通） ネット上に地域住民の新たなネットワークづくりの場を構築・運営（CSR） 総務省 u-japan ベストプラクティス 2008 事例選定</p> <p>■2009年 青森県のお店と住民をつなぐ「ぷらなび」立ち上げ（富士通） 地域SNSを拡充し、地域のお店と住民がつながる情報広場を構築・運営 APPLIC「ブロードバンド利活用事例集」掲載</p> <p>■2010年 平成20年度総務省地域ICT利活用モデル構築事業（青森県五所川原市） 全国の太宰治ファンと太宰のふるさと奥津軽をつなぐ着地型観光情報発信モデルを構築 平成23年度「情報通信月間」東北総合通信局長表彰</p> <p>■2011年 観光クラウドモデルの構築・展開（青森県・富士通） 2010年地域ICT利活用モデル構築事業の成果を青森県の観光クラウドモデルとして再構築 観光クラウドの代表的なサービスであるMyルートガイドを国内55地域へ展開 ASPICクラウドアワード2013 ASP_SaaS部門 審査員特別賞受賞 平成26年度 総務省地域情報化大賞特別賞受賞</p>

- | | |
|--|---|
| | <p>■2011年 着地型観光における「新しい公共」モデル構築事業（NPO かなぎ元気倶楽部）
行政やNPO、レンタカー会社の協業による県内での広域周遊サポート体制を構築
内閣府 新しい公共の場づくりのためのモデル事業 内閣府推奨事例選定</p> <p>■2016年 総務省 観光オープンデータの海外活用モデルの実証事業（ドイツ）
全国の外国語観光データを活用して海外14カ国の旅行サイトで訪日観光情報
や周遊支援機能を実装
ドイツで実証 国際IT展示会CeBIT（@ドイツ）出展</p> <p>■2016年 総務省 ICTまち・ひと・しごと推進創生事業（秋田県由利本荘市）
青森県観光クラウドモデルの横展開
住民参加による観光ルートの共創や地場産業からの情報発信など、官民協働で
の観光情報発信モデルを構築</p> <p>■2017年 総務省 地域IoT実装推進事業（山形県酒田市）
青森県観光クラウドモデルの横展開
広域連携による外国語観光データの共同利用により、インバウンドの観光案内
サービス等の受入体制を整備</p> <p>■2019年 総務省 情報信託銀行の海外連携実証事業（シンガポール）
東京大学やJTB等と連携し、訪日外国人の個人情報（PDS 活用）を活用した
在外旅行会社（シンガポール）での訪日旅程コンサルサービスを実証</p> |
|--|---|